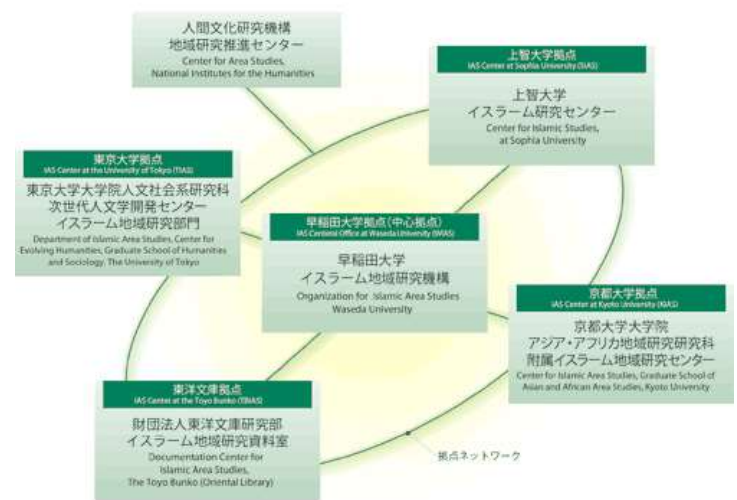


「イスラーム地域研究」の展開と可能性:ラーホール国際会議を通じて 上智大学イスラーム研究センター

「イスラーム地域研究」とは何か？

「イスラーム地域研究」とは、イスラームとイスラーム文明に関する実証的な知の体系を築くことをめざす**新しい研究分野**である。その開拓と推進のため、2006年より人間文化研究機構(NIHU)と共同で、本学を含む5つの大学・研究機関に研究拠点を設け、相互に連携しながら活動を行う**ネットワーク型の共同研究**であるNIHUプログラム「イスラーム地域研究」が開始された。2011年4月から**第2期活動が開始**され、本年はその3年目にあたる。

NIHUプログラム イスラーム地域研究 NIHU Program Islamic Area Studies



イスラーム研究センター

研究活動は、本学拠点として**市ヶ谷キャンパス**に設置されたイスラーム研究センターが主体となり、研究会やシンポジウムなどの開催を通じて推進するほか、国内外の研究者や研究機関との積極的な連携を進め、**ネットワークを通じた活動**を展開する。

成果発表媒体

- ①SIAS Working Paper Series
- ②「イスラームを知る」シリーズ、IAS 英文叢書シリーズ、原典翻訳シリーズ、など
- ③『上智アジア学』(アジア文化研究所発行)
- ④SOIAS Research Paper Series (2012年度まで)

研究テーマ:「イスラーム近代と民衆のネットワーク」

- ①イスラーム運動における社会的活動
- ②イスラーム書を介した人と情報のつながり
- ③スーフイズム・聖者信仰複合によって結ばれるイスラーム的ネットワーク



ラーホール国際会議 (11月2日~4日パキスタン・ラーホール経営科学大学)

- ①2008年(クアラルンプール)、2009年(カイロ)、2010年(京都)に続く第四回目の国際会議
- ②テーマ「New Horizons in Islamic Area Studies: Encounters, Reflections, and Collaborations」
- ③本学拠点所属の研究者たちが多数報告(東南アジア、アラブ、北アフリカ、南アジア地域)
=広域的かつ多岐にわたる研究テーマを研究+研究ネットワークの国際的展開
* イスラーム地域研究プログラム・合同集会を主催「国際シンポジウム:多文化交流のなかのイスラーム:東南アジアの写本美術、物語、装いから」(2013年10月19日)
⇒**本学拠点の研究成果の進展、成果の積極的な社会還元と学術的貢献**



今後の課題:

これまで取り組んできたテーマをさらに深化させると同時に、より広域的なイスラーム地域研究を展開し、グローバル化の中で多様化するイスラーム地域の諸問題の総合的な理解を提示する。



研究代表者:私市正年(イスラーム研究センター長/外国語学部アジア文化副専攻教授/アジア文化研究所所員)
共同研究者:川島緑、赤堀雅幸(以上、外国語学部アジア文化副専攻教授/アジア文化研究所所員)、
三代川寛子(アジア文化研究所客員所員)、登利谷正人(イスラーム研究センター特別研究員)
上智大学イスラーム研究センター(SIAS): <http://www.info.sophia.ac.jp/SIAS/index.html>
上智大学イスラーム地域研究機構(SOIAS): <http://www.info.sophia.ac.jp/SOIAS/index.html>